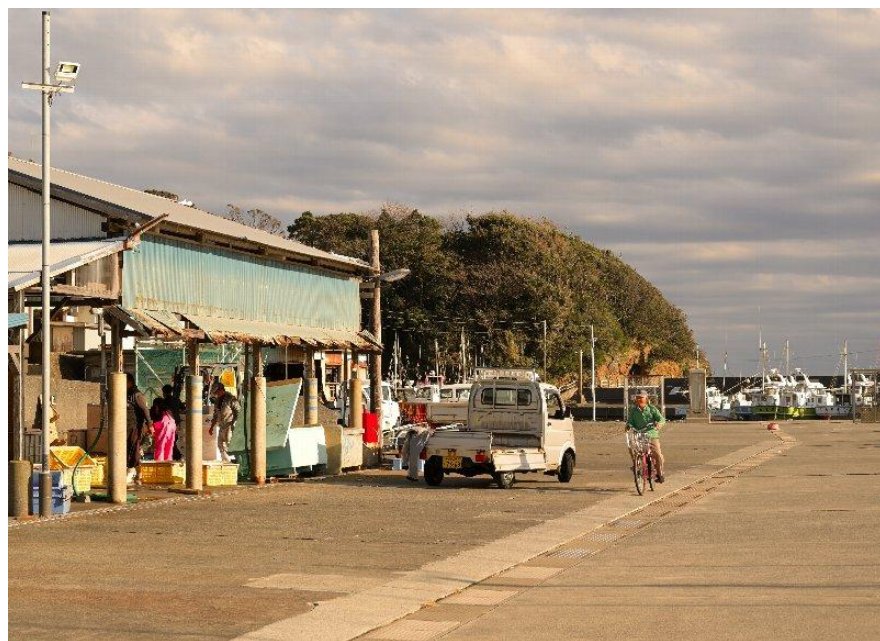


すざきぎょうこう

須崎漁港周辺

ジオの半島、漁村の営み、
ゆったりぶらぶら須崎めぐり



①ぶらり須崎の漁村風景



②てくてく須崎の自然風景

所在地	静岡県下田市須崎
面積	約160ha
施設	須崎漁港、恵比須島公園、須崎漁民会館、須崎遊歩道
アクセス	伊豆急下田駅からバス15分 徒歩 1 時間

自然

須崎は伊豆半島の南端、下田港の東方約 1 k mのところにある東西約 3 k m、南北約 2 . 5 k mの半島形の地域を指す。太平洋に突出し、黒潮の影響を受けて温暖な海洋性気候を呈するが、風が強い。冬は結氷、降霜などの現象が少なく、降雪は非常にまれである。また、須崎の集落は漁業と農業を兼ね備えた地区で、岩礁に囲まれた小さな入り江に面し、海に面する傾斜地に民家が段状に密集している。

観光

漁村ならではの生業を活かした「民宿」発祥の地として伊豆急行開通の昭和36年頃から観光業が盛んとなった。周辺の海岸線は渡船やダイビング、磯観察などに適し、恵比須島や須崎遊歩道などジオサイトに関連する自然景観も楽しめる。

歴史

江戸時代には伊豆国賀茂郡須崎村と称し江戸と西国を往来する船の船改めや、風待ちの寄港地として繁栄した。また、江戸で使用する石材が須崎を含む伊豆半島から採られて船で運ばれた。明治維新後、葦山県、足柄県を経て明治 9 年（1876）静岡県に編入され、同22年（1889）浜崎村となり、昭和30年(1955)に下田町と合併し同46年（1971）に市制が敷かれ現在に至る。

対象エリアの位置図





①ぶらり須崎の漁村風景



(1) 集落

須崎の集落は岩礁に囲まれた小さな入江に面し、海に面する斜面地に民家が段状に密集している。集落内の街路は細く、勾配が急なことから集落内の道路には階段も見られる。

伊豆石を使った建築物が多く、同じく伊豆石を使用した水路なども特徴的である。釣船を経営している家もあることから、船の名前を掲げている建物も多い。また、石仏など海への信仰を対象とするものも各所に点在している。

集落の一体性を保全しつつ、オープンスペースの確保など漁村風景を味わいやすい環境づくりをしていくことが必要である。

(2) 生活

天草漁やキンメ漁などの拠点となる港では、漁船が停泊していたり、エビ網の修繕風景など、港と集落一帯で磯浜の趣ある漁村風景を形成している。また、民宿への宿泊を通じて「いけんだ煮味噌」を代表する名物など海の特産物を味わうことができる。

後継者育成などを通じて訪れる人がより身近に感じることでできる場を発展させていくことが必要である。

(3) 海の恵みに感謝する祭り

津島神社例大祭は日ごろの海の恵みに感謝し、須崎の平和を祈り、神輿を巡行する祭典で、毎年旧暦の6月15日に行われている。祭りの終盤には、海入りがあり、神輿が何度もぶつかり合い、住民も拍手や掛け声を出し、海入りをする。その後は、最後の力を振り絞り、長い坂を上って宮入をする。

このように港町ならではの情景を生み出しているほか、祭典執行のために地域が一体となり、年間を通じて地域の拠り所となっている。

このような地域活動を大切にしていけることが必要である。

〈景観形成の主な課題〉

- ・漁村風景の近景、中景、遠景を楽しめる眺望への配慮・休憩所等の不足
- ・訪れる人が不自由なく滞留できるような仕組づくり等の配慮
- ・人口減少によるまちの活気や地域活動の維持

②てくてく須崎の自然風景



(1) 自然を見たり、遊んだり

恵比須島は須崎半島の最南端と橋でつながっている島のため、徒歩で往来できる。周遊路なども整備され、橋付近やその先にある千畳敷は磯観察などに最適である。

須崎遊歩道は須崎小白浜から爪木崎を結び、伊豆半島が一望できる海岸コースと岩山コース、山道コースによって形成される。伊豆七島や神子元島を望む眺望を様々な角度から楽しめる。

更に眺望の魅力を高めるため、修景伐採や座って眺める視点場づくりを進めることが必要である。

(2) 伊豆半島の成り立ちが分かる自然景観

恵比須島の千畳敷は波に削られてできた平坦面が隆起して海面上に姿を現したもので、伊豆半島ジオパークのジオスポットに指定されており、江戸時代に石材を切り出した跡も確認できる。島の壁面は安山岩の角ばった石と火山灰が固まった火山角礫岩が見られ、伊豆半島の火山活動の様子を容易に観察することができる。また、およそ1,300年前に儀式などが行われた祭祀遺跡なども存在する。

須崎遊歩道も含めて適切な管理を継続することや、訪れる人が分かりやすい案内サインの整備・情報発信を行い、より一層知識を深められる媒体を提供することが必要である。

(3) 自然で感じる幕末

幕末に至り、欧米の船舶が往来するようになると、海防のため須崎には御台場が設置された。その後、安政元年（1854）にはペリーが来航して日米和親条約が締結され、下田・函館を開港し、我が国の通商貿易の端緒が開かれた。須崎半島の西端に位置するこの御台場跡は往時の姿を偲ばせている。

また、ペリー艦隊が下田に来航したとき、帯同していた隊員は下田で植物の採集も行っており、その標本は現在でも米国で保管されている。それら植物群の多くは須崎で観察することができる。

自然の中に歴史的意味を持たせることや、遺跡の整備等を行うことで魅力を発展させていくことが必要である。

〈景観形成の主な課題〉

- ・眺望を阻害してしまうものがあり、見たいものが見られない
- ・樹木の成長等経年で変化するものや、整備済の箇所の継続的な整備が必要
- ・サイン案内の形状や色彩が不揃い等により、集約、移動、撤去すべき箇所がある

ジオの半島、漁村の営み、ゆったりぶらぶら須崎めぐり

地域住民の視点

- ・観光客が休憩できるところがない
- ・駐車場が少ない
- ・地元民と観光客との接点する場が必要
- ・食事処など観光客向けの施設が少ない
- ・民宿が減少している
- ・施設・家屋等老朽化しているものが多い
- ・高齢化が進んでいる

有識者の視点

- ・集落の形態が傾斜地に密集していて縦にも横にもまとまり感がある。
- ・適所にパブリックスペースの整備が必要
- ・空家の活用方法を要検討
- ・漁業者が仕事を終えたあとどこで余暇を過ごすのか、など地元ならではの情報が重要



目標 1



①そこかしこで楽しめる漁村景観づくり

景観づくり方針

- ①地域住民と観光客の利用の調和が図られたゆったり楽しめる憩いの場づくり
- ②須崎ならではの漁村景観を発展できる仕組づくり

目標 2



②眺望と歴史、五感で味わう自然景観づくり

景観づくり方針

- ①眺望をより美しく見ることができる場づくり
- ②歴史を肌で感じることができる場づくり

目標 1 そこかしこで楽しめる漁村景観づくり

方針 1 -① 地域住民と観光客の利用の調和が図られたゆったり楽しめる憩いの場づくり

	取組	実施主体
短期	①周辺環境と調和したトイレの整備 ②漁民会館周辺の公園や空き地の再整備 【色彩及びデザインは周囲の景観を引き立たせるためにそれ自体が目立つものになっていない】、【周辺の景観資源の眺めが阻害されないように配置、形状を工夫する】※①、②共通事項 ③案内サインの再整備（数は少なく、的確に） 【眺望を遮らない・周辺環境に違和感を与えないように注意する】	市 市・事業者
中・長期	④キンメダイ等の水揚げ風景を自由に楽しめるイベント等環境整備 ⑤傾斜地に建つ住宅群に溶け込むようなパブリックスペース整備	市・地元・事業者 市・地元

方針 1 -② 須崎ならではの漁村景観を発展できる仕組づくり

	取組	実施主体
短期	⑥地元の食材が楽しめる食事を提供できる場（オープンスペース）の整備や仕組づくり ⑦住民主体による道路や漁港周辺の清掃 ⑧地元民の地元行事への積極的な参加の促し	市・地元・事業者 地元 地元
中・長期	⑨空家対策 ⑩漁業・農業者育成支援 ⑪庚申堂や点在する石仏群などの紹介・広報	市・地元 市・地元 市・地元

目標 2 眺望と歴史、五感で味わう自然景観づくり

方針 2 -① 眺望をより美しく見ることができる場づくり

	取組	実施主体
短期	⑫恵比須島、須崎歩道ほか、市道、農道沿線に点在する視点場の樹木の手入れ 【樹木等が眺望を妨げないように配慮する】 ⑬市道・農道沿線の屋外広告物等の撤去・更新 【案内サインを設置する際には眺望を遮らない・周辺環境に違和感を与えないよう注意する】	市・地元 市・事業者
中・長期	⑭恵比須島山頂付近の公園再整備	市

方針 2 -② 歴史を肌で感じることができる場づくり

	取組	実施主体
短期	⑮黒船が持ち帰った植物などの紹介・広報	市・地元
中・長期	⑯御台場跡までの歩道整備や御台場周辺の視点場整備	市

対象エリアの入口・アクセス部における景観形成

当該エリアの入口、あるいはアクセス道路となる箇所（区間）で実施する景観形成を以下に示します。

	取組み	実施主体
短期	⑰違反屋外広告物に対する是正措置 （国道135号、県道須崎柿崎線：伊豆急下田駅～須崎周辺） ⑱アダプト・ロードプログラムによる道路美化活動	市、県 県・地元
中・長期		

7. 景観施策(案)のイメージ図

